

素材：銅板（1.2~1.5mm）

技法：鍛金

使用道具

鉛筆
粘土
金槌
当て金
木台
金切り鋏
万力
コンタマシン
ガス溶接（酸素・アセチレン）
CO2 溶接
アルゴン溶接
ヤニ（松ヤニ、地の粉、菜種油、松煙）
タガネ
610 ハップ（着色液）
緑青液



photo by Taku Saiki

1



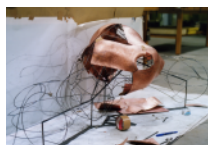
アイディアスケッチ
粘土模型による推敲



決定した形をラップで覆い、
銅板で作る時の分割の方法
を採る。



2



鉄線でフレームを作る。
フレームの曲面に沿って
銅板を絞る。

フレームの曲面に合った
銅板のパーツとパーツを
アルゴン溶接でつなぎ合
わせる。

3



ある程度の大きさになった
パーツを固定するゲージを作り、
つなぎ合わせる位置を決める。

パイプのパーツ
本体とつなげた時、接続部分を
叩くことが出来るように、本体
とつながる部分を先に作る。

4



本体部分にパイプを溶接
していく。

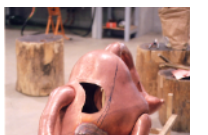
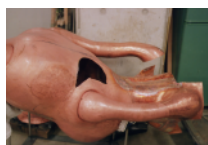
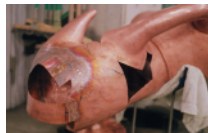


銅板の色の違う部分は、
溶接によって生じた酸化膜。



顔のパーツを作る。
細かい形体は微細に操作の
出来るタガネを使用する。
タガネを使用する際は、作品の
裏側にヤニ（写真：黒い物質）を
溶かして流し込む。

5



顔部分には仮の銅板を
溶接しておく。

部分的に開口部を残し
そこから膿を入れて作
業をする。

6



顔のパーツを取り付ける。

いろいろな向きに動かし、
溶接した部分などを叩く。

だいたいの形体が完成。
この後、着色と立ち上げる
ための台座を作成。